

平成20年10月3日

観光圏整備実施計画の認定及び平成20年度観光圏 整備事業に係る補助金交付地域の選定について ～九州2地域の観光圏整備実施計画を認定～

観光庁では、観光立国の実現に向けて、国際競争力の高い魅力ある観光地の形成を促進するため、「観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する法律」（平成20年法律第39号）に基づき、複数の観光地が連携して2泊3日以上滞在型観光を目指す「観光圏」の形成を促進することとしています。

今般、国土交通大臣は、同法第8条に基づき、16地域を対象に法施行後初めてとなる観光圏整備実施計画の認定を行いました。

観光圏整備実施計画の認定により、同計画に位置付けられた観光圏整備事業について、以下のメニューによる総合的な支援を実施します。

観光旅客の来訪・滞在の促進に効果や成果の見込まれる事業に係る補助金の交付（補助率上限40%）

着地型旅行商品の販売に係る旅行業法の特例

周遊割引券の導入に係る運送関係法令の手續緩和

宿泊施設に係る設備投資に対する財政投融資 など

合わせて、社会資本整備や農林水産省が実施する農山漁村活性化プロジェクトなどと連携を図ることにより、民間組織の創意工夫を活かした「観光圏」の形成を支援してまいります。

また、上記メニューのうち、観光圏整備事業に係る補助金について、地域の観光振興に関する有識者から構成された第三者委員会にお諮りした上で、観光庁として、補助制度の目的に合致する14件を平成20年度の補助金交付対象地域とすることをあわせて決定いたしました。

なお、九州では、2件（新東九州観光圏、阿蘇くじゅう観光圏）の観光圏整備実施計画が認定され、今後、各地域において観光圏整備事業に着手していきます。

同時発表 国土交通省 観光庁

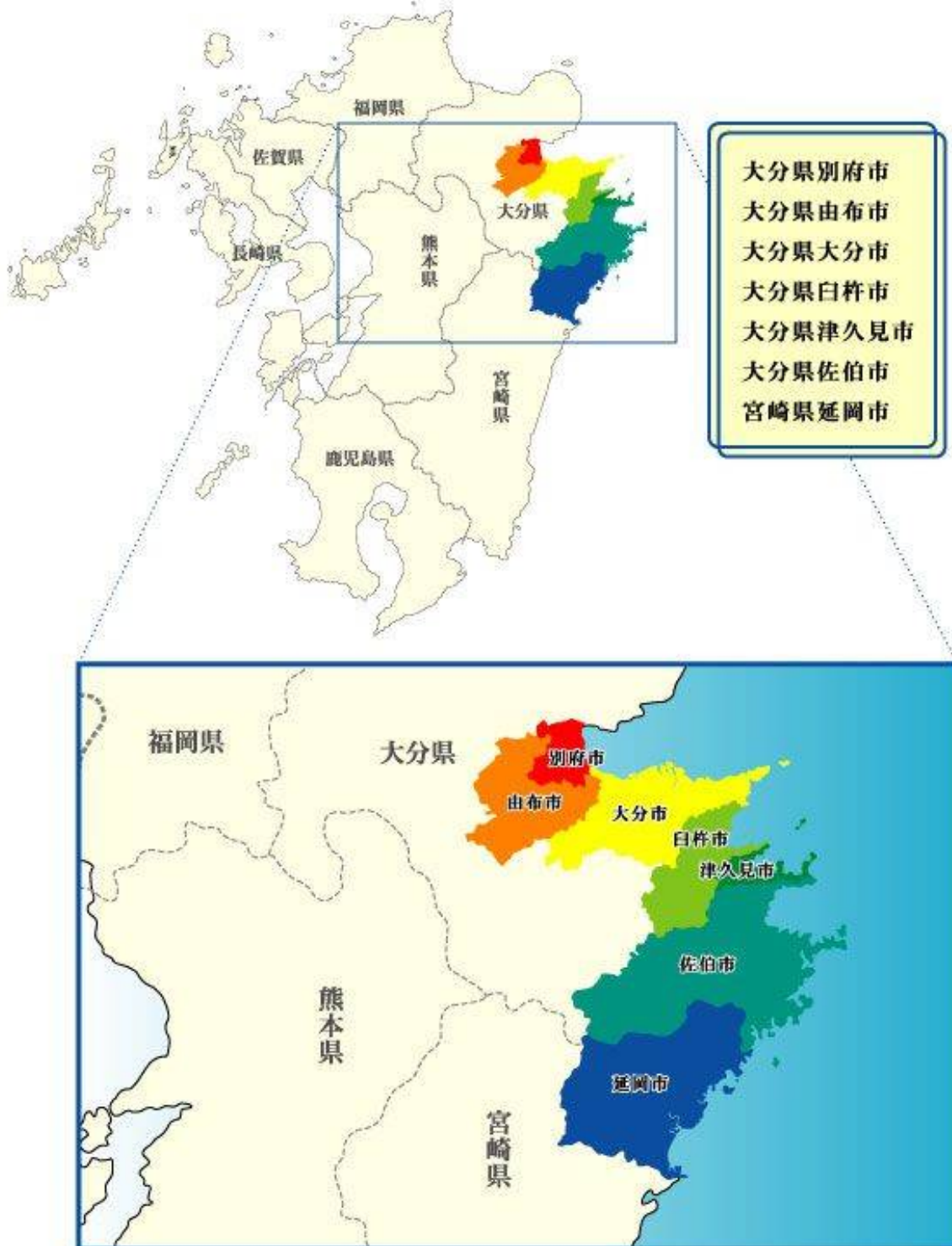
< 問い合わせ先 >

九州運輸局 企画観光部 観光地域振興課 押井、江藤

電話 092-472-2920

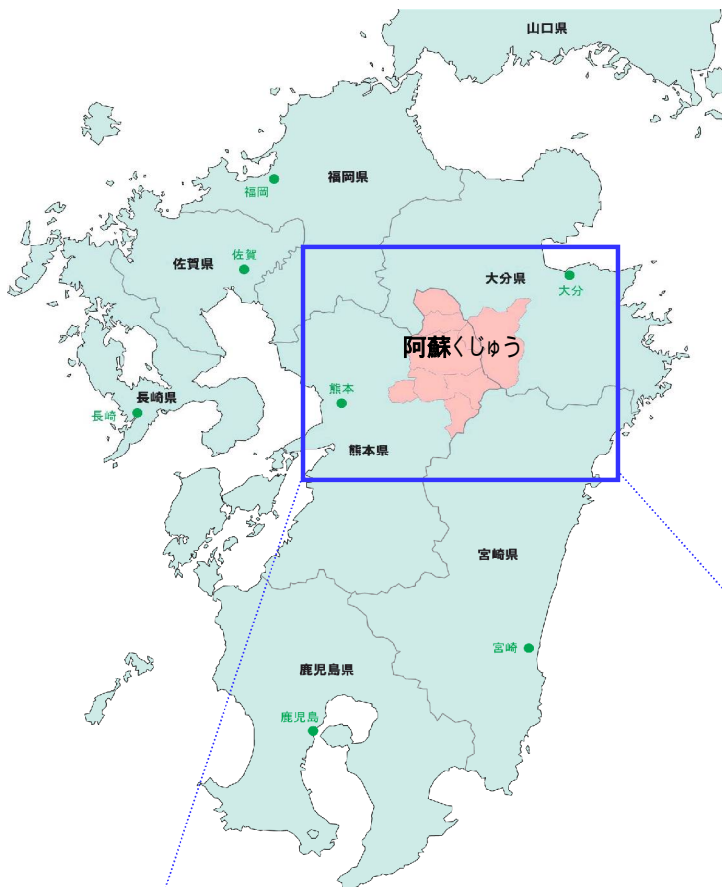
新東九州観光圏の概要

圏域名	協議会名	計画概要（キーコンセプト）
新東九州観光圏	新東九州観光圏協議会(H20.8~)	「温泉地」がもつ「隠れた魅力」と認知度の低い日豊海岸の「浦」が有する独特な「秘められた魅力」を相互に連携させ、「デジタル社会をリセットするアナログな体験」を提供する。
大分県：別府市、由布市、大分市、臼杵市、津久見市、佐伯市 宮崎県：延岡市		



阿蘇くじゅう観光圏の概要

圏域名	協議会名	計画概要（キーコンセプト）
阿蘇くじゅう観光圏	阿蘇くじゅう地域デザイン会議 (H18.7~)	「阿蘇くじゅう国立公園」を活かしたエコツーリズムを柱とし、温泉、自然、歴史等を連携させた九州No.1の滞在交流型観光地づくりを目指す。
熊本県：阿蘇市、南小国町、小国町、産山村、高森町、 南阿蘇村、西原村、上益城郡山都町 大分県：竹田市		



- 熊本県阿蘇市
- 阿蘇郡南小国町
- 〃 小国町
- 〃 産山村
- 〃 高森町
- 〃 南阿蘇村
- 〃 西原村
- 上益城郡山都町
- 大分県竹田市





< 問い合わせ先 >

観光庁 観光地域振興部 観光地域振興課 塩崎・岩淵
TEL : 03-5253-8111 (代) 内線 27-713 直通 5253-8328
国土交通省 総合政策局 事業総括調整官室 田中
TEL : 03-5253-8111 (代) 内線 24-543 直通 5253-8271

< 同時発表 >

- ・各地方運輸局
- ・沖縄総合事務局

平成 20 年 10 月 3 日

国 土 交 通 省
観 光 庁

観光圏整備実施計画の認定及び平成 20 年度観光圏整備事業に係る補助金 交付地域の選定について

観光庁では、観光立国の実現に向けて、国際競争力の高い魅力ある観光地の形成を促進するため、「観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する法律」（平成 20 年法律第 39 号）に基づき、複数の観光地が連携して 2 泊 3 日以上滞り型観光を目指す「観光圏」の形成を促進することとしています。

今般、国土交通大臣は、同法第 8 条に基づき、16 地域を対象に法施行後初めてとなる観光圏整備実施計画の認定を行いました。

観光圏整備実施計画の認定により、同計画に位置付けられた観光圏整備事業について、以下のメニューによる総合的な支援を実施します。

観光旅客の来訪・滞在の促進に効果や成果の見込まれる事業に係る補助金の交付（補助率上限 40%）

着地型旅行商品の販売に係る旅行業法の特例

周遊割引券の導入に係る運送関係法令の手續緩和

宿泊施設に係る設備投資に対する財政投融资 など

合わせて、社会資本整備や農林水産省が実施する農山漁村活性化プロジェクトなどと連携を図ることにより、民間組織の創意工夫を活かした「観光圏」の形成を支援してまいります。


また、上記メニューのうち、観光圏整備事業に係る補助金について、地域の観光振興に関する有識者から構成された第三者委員会にお諮りした上で、観光庁として、補助制度の目的に合致する 14 件を平成 20 年度の補助金交付対象地域とすることをあわせて決定いたしました。

以上、対象地域及び詳細は別添のとおりです。

観光圏整備実施計画認定対象地域(16地域)

(平成20年10月1日現在)

圏域名
「サブタイトル」
(対象市町村名)

うち  は20年度補助案件(14地域)

富良野・美瑛 広域観光圏
「ちょっと暮らすように旅をする～田園休暇街道」
(富良野市、美瑛町、上富良野町、中富良野町、南富良野町、占冠村)

会津・米沢地域観光圏
「変わらぬぬもり、変わる楽しみ～会津・米沢 千の旅回廊～」
(福島県会津若松市、喜多方市、下郷町、南会津町、山形県米沢市)

雪国観光圏
「あっとい間に別世界 また来なくなる雪の国」
(新潟県魚沼市、南魚沼市、湯沢町、十日町市、津南町、群馬県みなかみ町、長野県栄村)

京都府丹後観光圏
「ゆるりぐるり ほっこり 丹後」観光圏
(京都府舞鶴市、宮津市、京丹後市、与謝野町、伊根町)

淡路島観光圏
「おかえりなさい～神話のふるさと淡路島～」
(兵庫県淡路市、南あわじ市、洲本市)

中海・宍道湖・大山観光圏
「ご縁で結ばれる、感動の旅」
(島根県出雲市、斐川町、松江市、東出雲町、安来市、大田市、雲南市、奥出雲町、飯南町、鳥取県境港市、米子市、倉吉市、三朝町、湯梨浜町、琴浦町、北栄町、南部町、伯耆町、日南町、日野町、江府町、日吉津村、大山町)

広島・宮島・岩国地域観光圏
「『広島・宮島・岩国 三本の矢』を巡る国際観光地整備事業」
(広島県広島市、廿日市市、大竹市、山口県岩国市、和木町)

阿蘇くじゅう観光圏
「風と歩く 光に逢う 彩に酔う 阿蘇くじゅう 時遊空間」
(熊本県阿蘇市、南小国町、小国町、産山村、高森町、南阿蘇村、西原村、山都町、大分県竹田市)

新東九州観光圏
「東九州東方見聞録 泉と浦の物語」
(大分県別府市、臼杵市、由布市、大分市、津久見市、佐伯市、宮崎県延岡市)

伊達な広域観光圏
「ゆっくり滞在、伊達な時(とき)を過ごす旅」
(宮城県仙台市、気仙沼市、登米市、松島町、利府町、南三陸町、大崎市、岩手県平泉町、一関市、奥州市)

ふくしま観光圏
「やさしさと自然の温もり」
(福島市、相馬市、二本松市、伊達市)

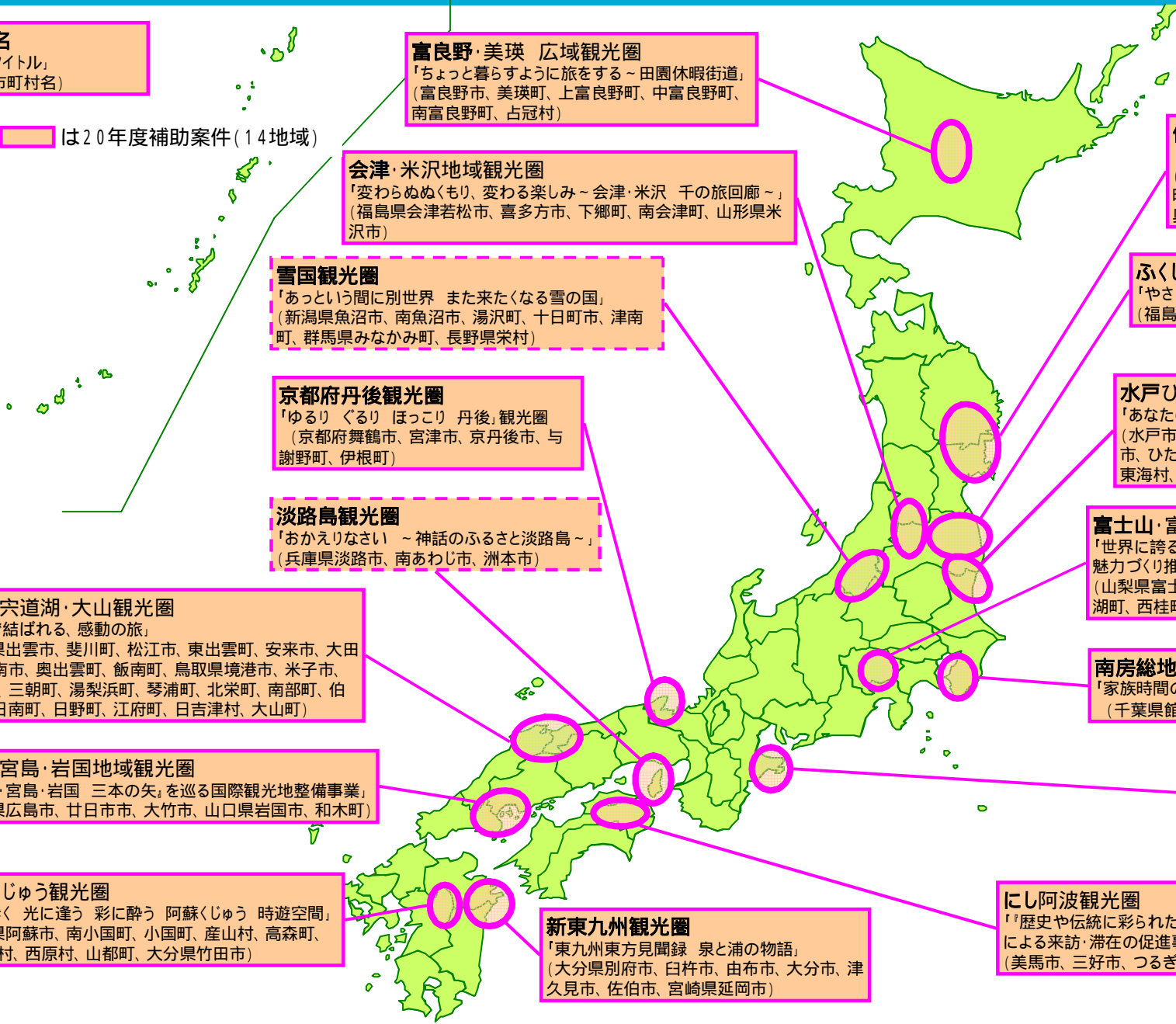
水戸ひたち観光圏
「あなたの空と大地」
(水戸市、日立市、常陸大田市、高萩市、北茨城市、笠間市、ひたちなか市、常陸大宮市、那珂市、大洗町、城里町、東海村、大子町)

富士山・富士五湖観光圏
「世界に誇る富士の自然と文化を活かした滞在型・リピートの魅力づくり推進事業」
(山梨県富士吉田市、忍野村、山中湖村、鳴沢村、富士河口湖町、西桂町)

南房総地域観光圏
「家族時間の旅～里海・里山が織りなす『南房総・交流街道』」
(千葉県館山市、南房総市、鴨川市、鋸南町)

伊勢志摩地域観光圏
「～RE:明日(リアス)式伊勢志摩の創出」
(三重県伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町)

にし阿波観光圏
「『歴史や伝統に彩られた日本の原風景の中で過ごす心豊かな時間の創造』による来訪・滞在の促進事業」
(美馬市、三好市、つるぎ町、東みよし町)



観光圏整備実施計画認定対象地域概要

管轄	圏域名	協議会名	計画概要 (キーコンセプト)
北海道	富良野・美瑛広域観光圏	富良野美瑛広域観光推進協議会(H6.5～)	冬のスキー、夏のラベンダーなど「1年を通じて泊まる・体験する・交流する・楽しむ」をキーワードとし、「6つの街道物語」、「10の寄り道」ルートを設定し、特に夏の日帰り・通過客を宿泊させることにより、延べ宿泊客数「150万人」を目指す。
	[北海道:美瑛町、上富良野町、中富良野町、富良野市、南富良野町、占冠村]		
東北	伊達な広域観光圏	伊達な広域観光圏推進協議会(H20.4～)	旧仙台藩の「伊達」文化をキーワードに、東北のゲートウェイ仙台と、平泉等の歴史・文化資源を中心に、個性豊かな観光資源を一体のものとして、農林漁業等を活用した体験プログラム等を充実し、滞在促進の圏域を目指す。
	[宮城県:仙台市、気仙沼市、大崎市、登米市、松島町、南三陸町、利府町 / 岩手県:一関市、奥州市、平泉町]		
	やさしさと自然の温もり 福島観光圏	福島市・相馬市・二本松市・伊達市観光圏協議会(H20.7～)	
	[福島県:福島市、相馬市、二本松市、伊達市]		
関東	会津・米沢地域観光圏	会津・米沢地域観光圏整備推進協議会(H20.7～)	「自然」「温泉」「食」「歴史」の地域資源を活かしながら、連泊プラン、朝夕の体験メニュー、滞在促進地区においては景観整備や泊食分離により「食」のPRにより、1泊2日や日帰り中心の「通過型観光」から「滞在型観光」への転換を図る。
	[福島県:会津若松市、喜多方市、下郷町、南会津町 / 山形県:米沢市]		
	あなたの空と大地 水戸ひたち観光圏	水戸ひたち観光圏協議会(H20.7～)	
関東	[茨城県:水戸市、日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、笠間市、ひたちなか市、常陸大宮市、那珂市、大洗町、城里町、東海村、大子町]		現在の県央地区への入込客を、域内オプショナルツアーを造成する等により豊かな自然環境の県北地区へ誘導すること及び「美容」「食」「趣味」等の体験メニューを充実し滞在型観光地を目指す。
	南房総地域観光圏	南房総地域観光圏整備推進協議会(H20.7～)	
	[千葉県:館山市、鴨川市、南房総市、鋸南町]		
関東	富士山・富士五湖観光圏	富士山・富士五湖観光圏整備推進協議会(H20.6～)	「世界に誇る富士」の自然と文化を中心に、富士山における感動体験プログラム、着地型旅行商品の開発などにより、圏域内連携して、連泊滞在型のリピーターが多い「観光交流文化圏」のブランドを形成していく。
	[山梨県:富士吉田市、西桂町、忍野村、山中湖村、富士河口湖町、鳴沢村]		
北陸信越	雪国観光圏	雪国観光圏推進協議会(H20.8～)	雪国の自然環境と文化の魅力を国内外にアピールし、観光客の来訪および滞在促進をめざす雪国観光圏ブランドを確立する。
中部	[新潟県:魚沼市、南魚沼市、湯沢町、十日町市、津南町 / 群馬県:みなかみ町 / 長野県:栄村]		
	伊勢志摩地域観光圏	(社)伊勢志摩観光コンベンション機構(H18.4～)	「伊勢神宮」「美しい国」「豊かな食文化」を目的とした観光客を滞在させるため、「点」から「面」として展開し、伊勢志摩全体として「何度でも来たくなる」、「ずっと楽しめる」、「周遊型」、「滞在型」、持続可能な観光地づくりに取り組む。
[三重県:伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町]			
近畿	京都府丹後観光圏	丹後広域観光キャンペーン協議会(H12.6～)	冬のカニ、夏の海水浴を中心とした二季型観光から、「ふるさと生活体感型観光」にこだわり、「四季型・滞在型観光」への脱皮を図るため、「ふるさと力」「誘客力」「地域力」の3つ観光力により「うみ・さと・やまの癒しと健康のふるさと」丹後をつくる。
	[京都府:舞鶴市、宮津市、京丹後市、与謝郡:伊根町、与謝野町]		
	淡路島観光圏	淡路島観光圏協議会(H20.8～)	
中国	[兵庫県:洲本市、南淡路市、淡路市]		淡路島全体をひとつの観光交流施設とみなし、「一日では感じ・見つけられない」、「淡路島でしか味わえない」滞在型観光への転換を図るため、戦略的な情報発信を行い、農漁業などの体験型観光の拡充を図り、交流人口の拡大と地域の活性化を図る。
	中海・宍道湖・大山観光圏	中海・宍道湖・大山観光圏協議会(H20.8～)	
	[鳥取県:倉吉市、三朝町、湯梨浜町、琴浦町、北栄町、米子市、境港市、日吉津村、大山町、南部町、伯耆町、日南町、日野町、江府町 / 島根県:松江市、出雲市、安来市、雲南市、東出雲町、奥出雲町、飯南町、斐川町、大田市]		
中国	広島・宮島・岩国地域観光圏	広島・宮島・岩国地域観光圏推進協議会(H20.8～)	「三本の訓(おしえ)」をキーワードに、「食」をテーマにした食べ歩き・メニュー開発、「夜」をテーマにしたそぞろ歩き・ライトアップ、「本物」をテーマにした体験メニューなどに取り組み、周遊促進・滞在時間の延長を図る。
	[広島県:広島市、廿日市市、大竹市 / 山口県:岩国市、和木町]		
四国	にし阿波観光圏	にし阿波観光圏協議会(H20.8～)	アレックス・カー氏が「日本の原風景」と紹介した「ほんものの田舎」の中で過ごす心豊かな時間を堪能してもらうため、周遊コースや滞在型メニューの創出等、「来訪・滞在を促進する旅の目的の創出(行ってみたい、体験してみたい、買ってみたい等)と思わせる理由づくり」を図る。
九州	[徳島県:三好市、美馬市、東みよし町、つるぎ町]		
	新東九州観光圏	新東九州観光圏協議会(H20.8～)	「温泉地」がもつ「隠れた魅力」と認知度の低い日豊海岸の「浦」が有する独特な「秘められた魅力」を相互に連携させ、「デジタル社会をリセットするアナログな体験」を提供する。
	[大分県:別府市、由布市、大分市、臼杵市、津久見市、佐伯市 / 宮崎県:延岡市]		
阿蘇くじゅう観光圏	阿蘇くじゅう地域デザイン会議(H18.7～)		
九州	[熊本県:阿蘇市、南小国町、小国町、産山村、高森町、南阿蘇村、西原村、上益城郡山都町 / 大分県:竹田市]		「阿蘇くじゅう国立公園」を活かしたエコツーリズムを柱とし、温泉、自然、歴史等を連携させた九州No.1の滞在交流型観光地づくりを目指す。